

TOEFL ITP® 模試分析レポート

受験者: 山田 太郎

模試受験日: 2026-02-10

模試形式: TOEFL ITP®

作成日: 2026-02-11

概要

01. 成績サマリ

開始時点でのスコア

500

最新スコア

541 / 677

+4点

目標点数

600

目標まであと59点

総評

- 総合: 541点 / 677点
- 目標(600点): あと59点
- 直近推移: +15点

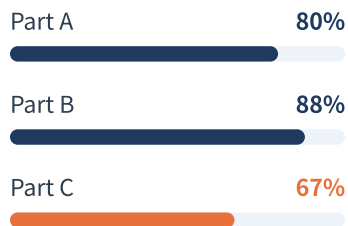
ここまで積み上げてきた勉強は、しっかり結果に出ています。あと少しの積み上げで選抜コミュニティ参加条件の550点は十分狙えますし、次の模試は「伸ばす回」になりやすいタイミングです。次の一手としては、550点到達を最優先に、苦手パートの絞り込み演習と取りこぼしを減らす解き直しを組み合わせで進めていくことをおすすめします。焦らず、一つずつ詰めていけば、必ず届きます。

詳細分析

02. セクション別内訳

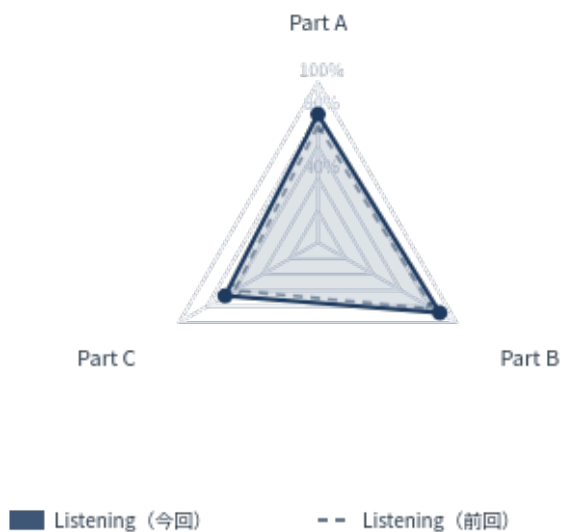
LISTENING

Part別正答率



Part別レーダーチャート

Part A / Part B / Part C の正答率 今回 前回



STRUCTURE

文法カテゴリ別正解率



Structure スコア

Structure (15問)

12 / 15問

正答率 **80%**

Written Expression スコア

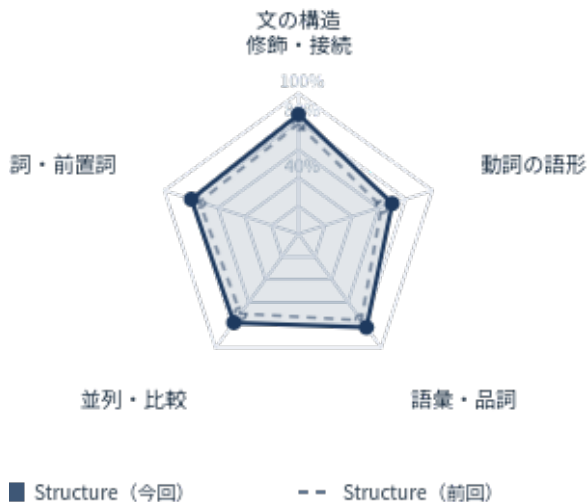
Written Expression (25問)

18 / 25問

正答率 **72%**

Structure 文法カテゴリ別レーダー

Structure (15問) —今回 ..前回



Written Expression 文法カテゴリ別レーダー

Written Expression (25問) —今回 ..前回



READING

生物学：光合成のメカニズム



8 / 10点

歴史：産業革命と社会変革



7 / 10点

天文学：惑星の形成過程



9 / 10点

心理学：記憶と学習



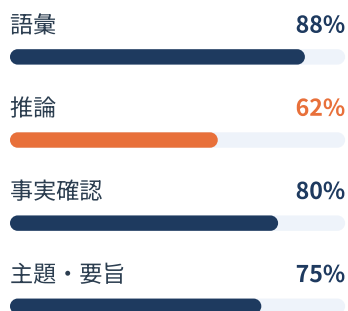
6 / 10点

経済学：需要と供給



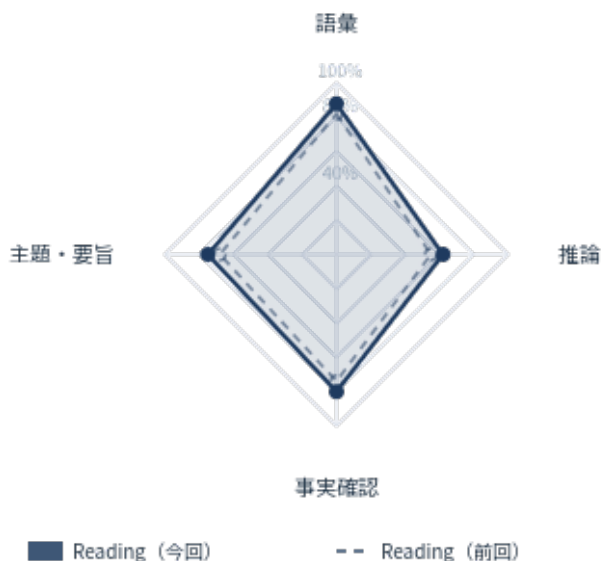
8 / 10点

問題タイプ別正解率



出題タイプ別レーダーチャート

語彙 / 推論 / 事実確認 / 主題・要旨 の正答率 今回 前回



分析

03. 強みと課題

✓ 強み

今回の模試全体を通して、Readingでは語彙を中心に安定した正答率が続いており、ListeningのPart A・Bでも短い会話や対話で得点を積み重ねられています。Structureでは文の構造や修飾・接続の正答率が高く、文法の土台はできている状態です。これら複数のパートで「得点源」が分散しているため、本番でもスコアのブレを抑えやすくなっています。この強みを維持しつつ、苦手パートの底上げを意識するとよいでしょう。

△ 課題

模試全体を見ると、ListeningのPart C（講義・トーク）は情報量が多く、聞き逃しやメモの取り方で差が出やすい部分です。またStructureの動詞の語形やReadingの推論問題では、正答率にばらつきが出ているため、ここを固めるとスコア全体の安定につながります。複数パートにまたがる「長文・推論・正確な形の理解」に共通して効くのは、演習量と振り返りです。苦手と感じるパートに絞った練習と、模試の解き直しを組み合わせると効果的です。

